

岡山県内で発生が確認されました！

## 特定外来生物

# クビアカツヤカミキリ に警戒を！

成虫の体長(頭～おしりまで)は  
約 2.5～4.0 cm



オス

メス

写真提供: 埼玉県環境科学国際センター

## これがクビアカツヤカミキリ！

- 和 名 : クビアカツヤカミキリ (別名 : クロジャコウカミキリ)
- 学 名 : *Aromia bungii*
- 原 産 地 : 中国、台湾、朝鮮半島、ベトナム北部など
- 成虫の形態 : 全体的に光沢のある黒色で、胸部が赤い
- 主な宿主 : モモ、ウメ、スモモ、サクラ等のバラ科植物
- 発生地域 : 愛知県、埼玉県、徳島県、大阪府、群馬県、東京都、栃木県、奈良県、和歌山県、茨城県、三重県、神奈川県、兵庫県、京都府、千葉県、山梨県、岐阜県、滋賀県、香川県、長野県  
**岡山県** (R8.7 現在)

クビアカツヤカミキリは特定外来生物に指定されています。  
生きたままの保管や運搬などが禁止されています。

## 最大の特徴はフラス

- 幼虫が樹の内部を摂食し、食入孔から大量のフラス(木くずと糞が混ざったもの)を排出します。  
※フラスの量は大量、少量と様々です。
- フラスは硬く細長い形状をしています(「うどん状」とも「ひき肉状」ともいわれる)。
- 幼虫の活動期は一般的に5～10月で、この間にフラスが樹幹から排出されます。
- **フラスは株元や幹、主枝分岐部など様々な箇所から発生するため、樹全体を観察する必要があります。**
- **耕作放棄園や街路樹などにフラスの排出がないか、地域ぐるみで観察することも重要です。**



写真提供: 徳島県(樹幹部写真)



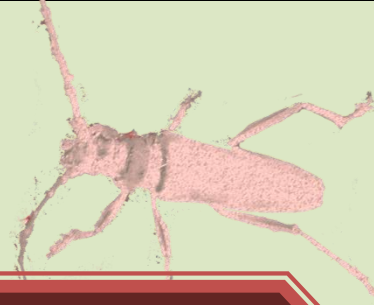
## 被害は？

- 幼虫の食入により樹勢が低下します。
- 多数の幼虫が寄生し被害量が多くなると枯死する場合があります。
- 大きな樹ほど被害を受けやすく、老樹や衰弱した樹に多い傾向があります。
- **食入孔は幹の低い位置や主枝分岐部など、様々な箇所に見られます。**
- 風当たりがよく、見通しのよいところに出やすいとされています。



写真提供: 徳島県

# クビアカツヤカミキリによる被害を防ぎましょう！



## 対策は？

- (1) 成虫が産卵を行う8月頃までに各作物に登録のある薬剤で防除します。特に収穫期に防除ができていない園地では収穫後の防除を徹底してください。

(参考：農薬検査登録システム)

<https://pesticide.maff.go.jp/>

- (2) ほ場などで成虫を見つけた場合は、直ちに捕殺してください。

- (3) フラスを見つけた場合は、フラス排出孔周辺の樹皮を解し、針金などを差し込んで、幼虫を刺殺します。

- (4) 捕殺の成否に関わらず、食入孔のある樹幹部にネット等（目合い4mm以下）を巻き付け、羽化した成虫の移動分散を防ぎます。  
ネットの中に成虫を見つけたらその場で捕殺します。

- (5) 被害が大きい樹は、9月以降から翌年の4月までに伐採し、放置せず成虫が飛散しないようネット等で覆い、速やかに処分します。

ネット巻きは、拡散防止・侵入防止に有効！



樹幹部にネットを巻き付けた様子

## その他、これまでに分かっていること

- 幼虫は1～3年かけて樹の内部を食害し、成長して蛹になります。
- 幼虫の摂食は春～初夏頃が盛んです。
- 5月下旬～8月頃に成虫となって出てきます。
- 雌成虫は交尾後、幹や主枝の樹皮の割れ目に産卵し、卵は8～9日後にふ化します。
- 成虫は2.5～3.0km程度飛翔する能力がありますが、産卵場所を求めて近くで移動することが多いといわれています。

クビアカツヤカミキリ幼虫



被害の拡大を防ぐには、**早期発見・早期防除**が重要です！  
見つけたら、**その場で捕殺し**、下記の機関等へご連絡を！

- (園地で発見した場合) 岡山県病害虫防除所(☎086-955-0543)  
お近くの農業普及指導センター  
岡山県農産課安全農業推進班(☎086-226-7422)
- (園地外で発見した場合) お近くの市町村窓口  
岡山県自然環境課(☎086-226-7309)